

令和4年度 活動報告

《湖山地区人推協活動》

Table with 3 columns: Date, Item, Participants. Lists activities from April to February.

《鳥取市地区人推協連合会・県人推協活動》

Table with 3 columns: Date, Item, Participants. Lists activities from May to December.

《湖東ブロック人推協活動》

Table with 3 columns: Date, Item, Participants. Lists activities from April to March.



子ども映画会



AED講習会



Paix(ペペ)人権コンサート

湖東ブロック 研修会

人権啓発 研修会

- 日時: 令和4年10月1日(土) 13:30~15:30
場所: 湖山西地区公民館
演題: 「バイアスと人権」
講師: 鳥取県人権文化センター 専任研究員 中尾 和則 さん

研修会では、バイアス(偏った意識や思い込み)や、それが起きる原因などを具体的な例や、グループワークを交えながら、わかりやすく教えていただきました。

バイアスという聞き慣れない言葉ですが、年齢や性別、肩書など、一つの側面から、相手を判断したり、集団から排除したり、自分の思考とは違う情報を無視するなど、日常よく見聞きすることばかりで、自分も無意識にしているかもしれないと思うことが多くありました。そして、その無意識の言動が、相手を追い込んでしまうことにも、恐ろしさを感じました。

自分の中にあるバイアスには、なかなか気づきにくく、バイアス自体を完全に無くすのは不可能ですが、存在を知ること、自分の言動をチェックしたり、コントロールすることができるようになります。一人ひとりが意識すれば、相手のことをより正しく理解できたり、情報を前向きに取り入れることができ、誰もが生きやすい世の中になることを学びました。

(湖山地区人権啓発推進員 藤井あゆみ)



人権啓発 推進員 研修会

- 日時: 令和5年1月21日(土) 9:00~11:00
場所: 湖山西地区体育館
演題: コンサート活動を通じた人権活動 人権を考えるミニコンサート
講師: 歌手、保護司 Paix(ペペ) (日本コロムビア所属)

ご存じの方も多いでしょうが、ペペさんは刑務所等の更生施設を中心に全国各地をまわっておられ、「刑務所のアイドル」とも呼ばれています。全部でアンコールを含め、10曲を1時間半、寒い凍るような体育館の中で熱唱。どの曲も優しく心に染み入るものばかりでした。合間には、更生施設でのコンサートの様子や、受刑者のご家族の方のお手紙のやり取りを通しての交流を披露してくださいました。特に、受刑者のご家族のお手紙は、家族としてのやりきれなさ、罪を犯してしまった家族への憎しみとそれでも家族だからという葛藤や、被害者の方への申し訳なさ、そして刑期半ばで永遠の別れとなってしまった内容には、ハンカチで目頭を抑える方も。また、お話の中で刑期を終えられた方の再犯率が高いというものがありました。原因の一つに、就職ができにくい、仕事がないという現実です。受刑者だからという目で見るとは仕方がないけど、頑張っていることを理解してあげてほしい、と話されました。

私たちは、どうしても自分を判断基準に言動をしてしまいがちですが、一歩とどまり、相手に寄り添うことが出来れば争うこともなく、差別という悲しいことも起きないのではないのでしょうか。外は寒いけどホッパリ温かな気持ちで家路につきました。

(湖山地区人権啓発推進員 滝河 和子)



人権図書紹介

Table with 2 columns: Book Title, Publisher. Lists books like '12歳までに身につけたいSDGsの起きほん'.

Table with 2 columns: Book Title, Publisher. Lists books like '12歳までに身につけたいSDGsの起きほん'.

編集後記

今年度も新型コロナ感染症に終始した一年となりましたが、感染症におびえることなく早期に日常生活に不安なく過ごせる日が来ることを願いつつ、湖山地区人推協の事業を進めてまいりたいと思いますので、町民の皆様のご協力とご支援をいただきますようお願いいたします。

日本国憲法(抄)

第十四条 すべて国民は、法の下(もと)に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。

こやま地区 人推協だより

第30号

2023年(令和5年)3月発行
湖山地区人権啓発推進協議会
〒680-0941
鳥取市湖山町北1丁目202-1
湖山地区公民館内
TEL (0857)28-1017

現地研修

円通寺人形芝居伝承館と 智頭 石谷家住宅を訪ねて

令和4年10月3日(月)



思いやりあふれる まちづくりをめざして

湖山地区人権啓発推進協議会 会長 田中忠義



2020年1月の新型コロナウイルス初感染確認から今年で3年が経過する中、昨年までの2年間は大幅に事業内容の見直しや事業の中止を行わざるを得ませんでした。今年度の人推協の事業については、ほぼ計画通り対面で実施することができましたことは、自治会や町民の皆様のご支援とご協力の賜物と感謝しています。

5月の総会に始まり、本協議会の重要事業の一つである小地域懇談会は、三密防止の観点から参加者の人数制限はありましたが3年ぶりに対面で実施することができました。テーマの一つであった新型コロナ感染症に関する人権問題では、「新型コロナ感染者やその家族・親族、医療関係者等への心無い誹謗中傷が差別につながっていること」や「コロナへの過剰な反応で発する言動が、差別や偏見につながっていると感じた」との参

加者の声があり、やはり人権問題について考える機会の重要性を再認識することができました。

また、3年ぶりに実施しました人権関連施設の現地研修では、円通寺人形芝居伝承館の見学・学習と智頭石谷家住宅見学バスツアーを行い、半日の行程ではありましたが参加者の皆さんからは、「近くにあっても知らないことばかりで、参加してとても良かった」との感想をいただき、町民の皆様の関心の高さが感じられました。

終わりに、来年度は新型コロナ感染症もインフルエンザと同様の感染症となる見込みであることから、感染諸対策を行う中で、思いやりあふれるまちづくりを目ざして人権を身近な問題として考えていただけるよう取り組みを行ってまいりますので、皆様の一層のご理解とご協力をお願いいたします。

令和4年度 小地域懇談会実施報告・アンケート結果

さかえ・農高南

- 9月25日(日) 10:00~11:00
- 湖山地区公民館 ■参加者:14名
- 視聴DVD 「君が笑っていた ~ソーシャルディスタンスの罫~」

〈アンケートより〉

- ・コロナについて正しく理解し、対応していくことが大事。間違った情報を信じ、誰かを傷つけてしまうのは悲しい。コロナを理解し、住みやすい、動きやすい環境をつくっていききたいと思います。

駅前1区・青葉台・南2丁目

- 10月16日(日) 13:30~14:30
- 湖山地区公民館 ■参加者:12名
- 視聴DVD 「君が笑っていた ~ソーシャルディスタンスの罫~」

〈アンケートより〉

- ・未知の病気が目の前にあると、人間の悪意が出てきやすいのかもしれない。常に人権を意識して、行動・判断しなければ思いました。

駅前2区・南団地

- 10月16日(日) 14:30~15:30
- 湖山地区公民館 ■参加者:7名
- 視聴DVD 「永遠の記憶・認知症を知る」

〈アンケートより〉

- ・認知症について、少し理解できました。
- ・認知症など、当事者の方を取り巻く者が理解を深めつつ関わることが大切だと学びました。

茶屋4区

- 10月28日(金) 19:00~20:00
- 茶屋4区公民館 ■参加者:15名
- 視聴DVD 「永遠の記憶・認知症を知る」

〈アンケートより〉

- ・認知症に対する家族の接し方や支え方等が学べ、大変有意義でした。
- ・一人の生活が長いので、地域の皆さまにお世話になるとは思いますが、よろしくお願ひします。

南2丁目南

- 11月6日(日) 10:00~11:00
- 湖山地区公民館 ■参加者:12名
- 視聴DVD 「君が笑っていた ~ソーシャルディスタンスの罫~」

〈アンケートより〉

- ・命を守る仕事をしている医療機関の方や感染者が差別を受ける現状について、もっとたくさんの方に知ってほしいし、差別や偏見を許してはならないと感じました。

島川

- 11月27日(日) 10:00~11:00
- 湖山地区公民館 ■参加者:9名
- 視聴DVD 「君が笑っていた ~ソーシャルディスタンスの罫~」

〈アンケートより〉

- ・コロナという見えない物が、偏見により、普通の生活を奪って来ました。コロナに感染した以上に、人の心への偏見という感染の方がすごくおそろしいと感じました。発する言葉や態度は、ウイルスよりも恐いです。



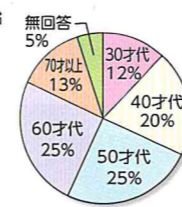
小地域懇談会へのこえ

- ・大変内容は良いのに、人が集まって開催して情報共有ができないのが残念。例えば、公民館HPに視聴したDVDをアップする、学校等で開催するなどしてはどうだろうか。
- ・今年度のように、公民館で準備を進めると参加しやすい。
- ・大切なことなので、隔年開催ではなく一年に一回ぐらいはやった方がいいと思う。

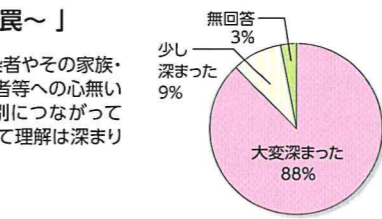


「君が笑っていた ~ソーシャルディスタンスの罫~」

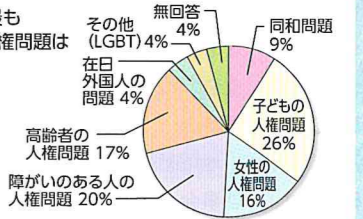
●参加者の年齢



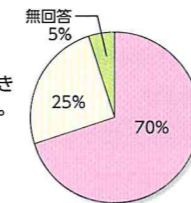
●新型コロナ感染者やその家族・親族、医療関係者等への心無い誹謗中傷が差別につながっていくことについて理解は深まりましたか?



●今、あなたが最も関心のある人権問題は何か?

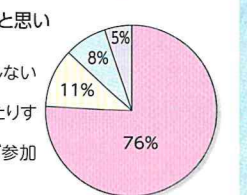


●新型コロナ感染拡大が私達の社会にある隠れた差別意識を浮き彫りにしていますが、視聴してあなたはどのように感じましたか?



- コロナへの過剰な反応で発する言動が差別や偏見につながっていると感じた
- 誰かの事ではなく、自分や家族の事として考えていくことが必要

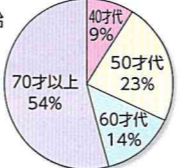
●今日の小地域懇談会に参加して、何か行動しようと思いましたが?



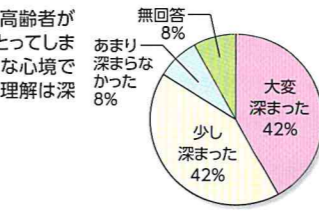
- 人権問題に関心を持ち、偏見をもったり、差別をしないようにしたい
- 人権問題について、もっと知識を深めたり勉強したりする機会を持ちたい
- ほかの人権に関するイベントにも、機会があれば参加したい
- 特に行動しようと思わない

「永遠の記憶・認知症を知る」

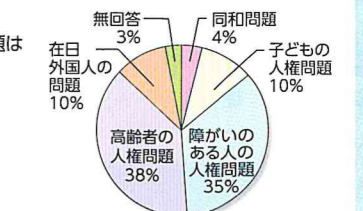
●参加者の年齢



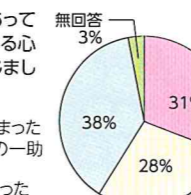
●認知症を発症した高齢者がどのような行動をとってしまうか、またどのような心境であるのかについて理解は深まりましたか?



●今、あなたが最も関心のある人権問題は何か?

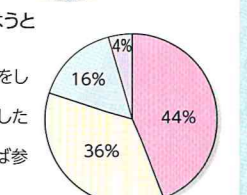


●認知症を発症した高齢者と話すことが苦手で学校でいじめにあっている少年をテーマに、立場や環境の違う人を周囲の人が思いやる心の大切さを描いていますが、視聴してあなたはどのように感じましたか?



- 認知症は決して他人事ではなく、いつ自分の事となるのか考えてしまった
- 自分や家族が認知症を発症した時、どのように行動していくのかの一端になった
- 認知症を発症した家族が、症状の進行とともにその苦労がよく分かった

●今日の小地域懇談会に参加して、何か行動しようと思いましたが?



- 人権問題に関心を持ち、偏見をもったり、差別をしないようにしたい
- 人権問題について、もっと知識を深めたり勉強したりする機会を持ちたい
- ほかの人権に関するイベントにも、機会があれば参加したい
- 特に行動しようと思わない

令和5年度 小地域懇談会 開催町区

- ・松ヶ丘 ・茶屋1区 ・茶屋2区 ・茶屋3区 ・二本松 ・浜
- ・新川 ・井津水 ・さざなみ ・駅前3区 ・大石橋 ・南通り

現地研修(共催:湖山地区公民館)

- 日付:令和4年10月3日(月) 13:00~17:30
- 場所:円通寺人形芝居伝承館 智頭 石谷家住宅



参加者の声

10月3日(月)に、円通寺人形芝居伝承館と石谷家住宅へ行きました。まず、伝承館では、県の民俗文化財にふさわしい「三吉デコ」「大黒舞」を鑑賞しました。その後、我々の中から3名、人形操作を体験され「難しかった」と言っておられましたが、大変上手にされたと思いました。次に石谷家住宅へと向かい、時間いっぱい見学させていただきました。どちらとも、非常に丁寧な説明で、心温まるひとときでした。帰りの車中では、参加者の中に石谷家建築に関わった人が先祖におられるとの事を知り驚きました。気持ちの良い一日を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

参加者の声

過酷な労働のもとに生まれた人形芝居。あちこちに行って公演し、それを生活の糧にしていた。人形の操り方を体験させてもらい、舞台からは昭和のレトロな雰囲気を感じられ、タイムスリップした様な気分になった。智頭・船岡にも同じ様なものがあるらしいので見たいものだ。石谷家は豪華な和風建築で古くから屋号があり、大庄屋・資本家・政治家という家柄。感嘆そのもので、当時を偲びながら説明に聞き入った。すばらしいとしか言いようがない。この様に対照的な労働の重み、財の重みを感じ、今回の企画に改めて脱帽した次第であった。(新川 Wさん)

人権啓発講演会(共催:湖山小教育協議会 人権教育推進部・湖山地区公民館・湖山地区民生委員児童委員協議会・青少年育成湖山地区協議会)

- 日付:令和4年11月26日(土) 10:30~11:30
- 場所:湖山地区公民館
- 演題:「ヤングケアラー問題を考える」
- 講師:鳥取県福祉相談センター(鳥取県中央児童相談所) 児童相談課 係長 石井 憲和 さん



「ヤングケアラー問題について」 湖山小学校 人権部代表

昨年に続き活動が制限されているなかですが、今年度は地域との人権研修会を無事開催することができました。「ヤングケアラー」についての講演を聞き、過度に家族のケアを担うことで、勉強に取り組むことや子どもらしい情緒的な関わりができず、年齢相応に自分の将来のことを考えることができない若者がいる問題について学びました。「ヤングケアラー」の社会的認知度はまだ低く、家庭内の問題ゆえに状況把握が難しいこと、子ども自身にその自覚がないという根本的な問題があることなど、支援の手がなかなか行き届かない現状に、保護者としても深く問題意識をもちました。しかし、そのような環境にある子どもたちにとって、地域の方々の気づきや声かけ、相談できる大人の存在が支援の一手になり得ることがわかり、地域とのつながりの大切さを改めて感じました。行政機関や支援事業所よりも、地域の方々はより身近な存在であり支援者であるとわかりました。地域の方々と保護者が一緒に学び、問題共有が出来る、とても有意義な機会となりました。